Rotary 第2820地区
Tsuchiura South Rotary Club Weekly Report 編集 土浦南RC会報委員会

土浦南ロータリークラブ 週報

仁和寺の御室桜

会長 稲野邉 穣　幹事 高野 和彦
■ 例 会 場　ホテルマロウド筑波 TEL.029-822-3000
■ 例会日時　火曜日　12:30～13:30
■ 事 務 局　土浦市真鍋 1-2-6 金塚ビル 3F TEL 029-823-4524 FAX 029-869-9006
■ ホームページ　http://tsuchiura-src.jp
■ Eメール　info@tsuchiura-src.jp

2018～2019年度
国際ロータリーテーマ

インスピレーションになろう

2019年４月９日　36号
2019年４月２日　第１例会報告

地区 HP　地区行事予定

1．点　　鐘　稲野邉会長
2．国歌斉唱
3．ロータリーソング斉唱（奉仕の理想）
4．来賓紹介　稲野邉会長
5．会長挨拶　稲野邉会長
6．幹事報告　高 野 幹 事
7．米山記念奨学生カウンセラー委嘱状贈呈　清野副会長
8．19～20年度委員会組織発表　清野副会長
9．お誕生日会員・ご夫人発表　親睦活動委員会
10．ニコニコボックス発表　塚﨑副ＳＡＡ
11．出席状況報告　出席委員会
12．来賓卓話
　めぶき証券㈱　つくば支店長　大野智昭様
13．点　　鐘　稲野邉会長

（司会進行　阿部ＳＡＡ）

本日のプログラム
観桜会　今年度は土浦ＲＣとの合同懇親会でございます。午後６時から例会，例会終了後懇親会となります。

次週のプログラム
４月16日（火）は，ＮＰＯ法人まちづくり活性化つちうらキララちゃんバス　大山直樹理事長によります卓話でございます。

出席状況

会員数	出席数	出席免除	出席率	全員出席卓	３名以上欠席卓	メークアップ	出席訂正率
名	名	名	%	卓	卓	名	%
94	70	6	76.92	1	5・7・8・9	5	82.42

【会長挨拶】

稲 野 邉　　穣　会長

皆様こんにちは。寒の戻りですが体調にお変わりありませんか。

皆様ご存知のように新しい年号が令和に決定いたしました。安倍首相が，“厳しい寒さの後 見事に咲き誇る梅の花のように，一人一人の日本人が明日への希望とともにそれぞれの花を大きく咲かせることができることが出来る日本でありたいとの願いを込めた”とあり，今の日本にぴったりだと思い，新しい年号に恥じないよう頑張りたいと思います。

来週４月９日は，観桜会ですが，今年度は土浦ロータリークラブとの合同懇親会となります。皆様には土浦クラブメンバーと交流を深めていただきたいと思います。南クラブのサンザンオールスターズも出演致しますので期待してください。

４月 20 日 21 日は地区大会が茨城県民文化センターで開かれます。お忙しいとは思いますが多数のご参加をお願いしたします。

また伊東会員におかれましては奨学生カウンセラーとして一年間お疲れ様でした。「様々な日本文化を体験させて頂きました」と奨学生の董然君が感謝しておりました。今月から私がカウンセラーになりますのでご指導お願いします。もう一人の青少年交換学生のソフィアさんですが，第２ホストファミリー 土浦ＲＣの河合家より最後のホストファミリー中島家に４月６日から移動します。日本で素晴らしい生活を送って頂きたいと思います。

今月は母子健康月間となっております。信じられないことですが今こうしている間にも世界中のどこかで 100 秒間に一人の割合で妊娠や出産で命を落とす女性がいるそうです。幼児に関しましては，死亡する子どもが年間 880 万人になるそうです。皆様のご協力によりＲＩがさまざまな活動をしておりますが母子の健康ためにご支援お願いします。

最後に清野年度も本格的に動き始め，私の会長年度も残り３ヵ月となりましたが，最後まで気を引き締めてまいりますので皆様のご協力をお願い致します。

【来賓卓話】

めぶき証券㈱ つくば支店長　大　野　智　昭　様

本日はお招き頂きありがとうございます。ご存じでない方もお出でかと思いますので会社の紹介をさせていただきます。めぶき証券は常陽証券という名前で常陽銀行の子会社として平成 18 年に創業致しました。一昨年に常陽銀行と足利銀行が経営統合による名称をめぶき証券となりました。現在はめぶきフィナンシャルグループの傘下として常陽銀行・足利銀行・めぶき証券・めぶきリースとなっております。

最初に自己紹介をさせて頂きたいと思います。私は長崎県の佐世保で育ちました。大学を卒業しバイオ関係の研究所で働きながら大学院に進み，大学院を中退して当時趣味だった株式投資の道を進んだ変わり者です。大手証券外資系銀行から旧常陽証券にお世話になりまして９年前に家族で東京から茨城県に，２年ほど前からつくばの方に移りまして，茨城県民としてはまだまだ新参者ですが宜しくお願い致します。

今日は何の話をさせて頂こうかと考えておりましたが，最近ベストセラーになっているファクトフルネスという本を書店で手に取りまして，株や人生でお世話になった方を思い出しました。その方や最近お客様で関心の高い日本経済の財務問題についてファクトフルネスからお話をさせて頂きます。ファクトフルネスはスエーデン出身の医者とその家族について書かれた本で，事実に基づく世界の見方を正しく捉える方法についてわかりやすく書かれています。今日の話が経済について，混乱を整理する手助けになればと思っております。

さて本題に戻りますが，私がお世話になった方は，「昭和最後の相場師」と呼ばれていた是

川銀蔵さんです。戦前は朝鮮の方で１万数千人の従業員のいる大きな鉄砲の会社の社長として活躍され，鹿児島県は菱刈鉱山の金山をよみ，住友金属鉱山の相場の仕手戦で有名になり，80年代前半では長者番付一位になり，２～３年にわたって非常に高額な所得を得ていた方です。

是川さんにお世話になったのは，私が前々社の関西の証券会社に勤めている頃，毎朝６時に始まる会社の投資会でした。その会は，証券会社の支店長や法人部長が集まる中で，ただ一人私が新人として参加，毎日怒られながら可愛がって頂き，その後の株屋人生の底辺を作って頂いた方です。いつも「私がお前みたいな新人の教育係をやらなきゃいけないんだ」と怒られていました。その中でも印象に残っているのが「自分の言葉で話す大切さ」です。いつも世の中は嘘だらけ着色だらけで人の話をまともに聴いていたら騙されるばかりになる，株価も経済の数字も信じるに値しないけれど，データをもっと信じろと言われました。是川さんは天才で，お会いした時は既に90歳位でしたが，記憶力が半端ではなく数か月分の経済データ，原油価格や株価の上下の為替相場軟化は大体３年分の数字は殆ど頭に入っている人でした。当時は，インサイダー情報は法律の立ち上げ期という事もあり，一介の証券マンが企業訪問して銘柄の情報を集めるというのは禁止行為ではありませんでした。とはいえ大手の証券会社でしたの勝手に会社訪問して企業部に怒られたりしましたが，実際そうして見つけた銘柄のパフォーマンスを見ると是川さんの言っておられた事を実践したのは間違っていなかったと思います。

では，お配りした資料１ページの図１は日本のGDPの成長率です，昨年度の数字になります。

次に図２は，経済連21世紀政策研究所がまとめた「グローバルJAPAN」2050年シミュレーションに書かれているものです。2050年基本１中国，米国，世界超大国があります。日本のGDPは2010年以降下回り中国，米国の1/6インドの1/3の規模となります。ただしこれはそのほかのレポートでは③の財政悪化による成長率という経団連とは違うのですけど③に近いようなランキングを予想しています。2050年の所ではこのランキングでは８～10位まで落ちるだろうということです。そういった研究所のあげている最大の理由はデフレーションです。

図３をご覧ください。96年と2016年のドル建てのGDPの比較をしたものですが，成長率について日本は主要国の最下位となっております。実際にアベノミクスが始まって2013年から数年間GDPの推移を確認します。

図４で最初に実質GDP，名目GDP，GDPデフレータというのがありますので，その確認をしたいと思います。GDPデフレータは，たまに新聞記事に掲載されていますが，GDPを時価で表示した名目GDPの物価成長の変化を調整した際に用いられる数字です。デフレータで調整することで物価変動の影響を受けない財やサービスを数字 すなわち実質GDPが分かるということになります。

わかりやすい例で物の販売に例えて書いてあります。

A社がある製品を200円で10,000個販売した2,000,000円になった，これがベースです。

翌年220円に値上げしたが好調で12,000販売した売り上げは2,640,000円でこれが名目GDPです。

値上げをしなかった付加価値の分が2,400,000円の売り上げ，これが実質GDPです。

GDPがしっかり成長し，そこに物価の上昇が加わって名目GDPが実質GDP以上に成長することが理想的な経済成長といわれていますが，GDP前年比がプラスでなければデフレということになります。

図５では，GDPの総額の最終報告会計側が2016年名目GDP 140兆円で過去を超えたと言われましたが，じつは旧基準で補正しますと500億円程度で過去のピークだった98年520兆円を下回っています。

図６は，さらに問題があり，国際発表は通常ドルで行われますが，2016年以降日本の経済力が衰退した効果がたくさん出ている，それは海外と日本のGDPを見ると理解できるかと思います。しかし，今説明したこれらの数字は名目のGDPです。政府発表やマスコミなんかも数字や指標も統一すればいいと常に思うのですが，その時々で都合のいい数字を扱う傾向があり，私は理系なので一番イライラするところであります。

図 7 では，実質 GDP で 1996 年から 2017 年までをグラフにしてみました。

さらに実質成長率で計算したものが図 8 になります。2012 ～ 2018 年にかけてプラス成長が続いています。たった 1％かもしれませんし 2018 年度は 0.6％と 17 年度から比べると成長が鈍化したのは明らかですが，成長しているのは間違いありません。このように一口に GDP と言っても名目や実質さらにドル建ての GDP があるのです。ニュースや新聞を見ていると GDP のバロメーターだけが強調されている事があります。それぞれの意味を正確に把握して惑わされない事が重要です。

最後に日本の財政についてみていきたいと思います。この図 9 は昨年 3 月末の財務省の HP から 1200 兆の借金が計上されていることがわかります。IMF です，その相当な評価を正しく行った方がいいという記事が昨年の 10 月に掲載されました。

IMF が昨年公表した IMF フィナンシャルモニタマネージングパブリックメルスです。これはロイターの BREAKINGVIEWS より抽出しております。巨額の借金を抱える日本の場合，負債額は GDP の 283％に相当しますが，その半分以上を日本銀行を含めた政府機関が抱えています。他の資産も考慮に入れて試算すると，日本の「純資産」は，ほぼプラスマイナスゼロになると，IMF は指摘しています。今年はこの後，参院選や増税等を考えると非常に政治面が悪化している状況です。そういったことから逆に株価への影響あまり緊急ではないということです。収益力は時代を遡って 90 年代の力を取り戻している状況です。先月は 3 月締めの集計が 510 兆円でした。その大企業の売り上げに対して純利益が 39 兆円，純利益は若干ぶれて 2％ダウ，昨年から差額の約 30 兆円となっています。その辺りの状況から考えると，日本株の 21,000 円というのが本当の価値なのかどうかということを見直して，本日の話を終わらせて頂きます。ご清聴ありがとうございました。